「今すぐ役立つクラウド活用術」
トピック別オンデマンド・シリーズ

クラウドアドバイザリーで始める デジタル変革 第二章

Make your deploy-anywhere future possible

© 2020 IBM Corporation

講演者紹介

日本アイ・ビー・エム株式会社
アソシエイトパートナー／エグゼクティブアーキテクト
八木沼 剛

専門は先進技術を適用するエンタープライズアーキテクチャーの構築

2020年から Cloud Advisory Practice の Japan Geo リーダー

最近は日曜の夕飯作りで美味い調味料とスパイスの組み合わせを
見つける実験やマスクして深呼吸しながらのランニングで
どこまでスピードを上げられるかの実験などしながら過ごしている

「今すぐ役立つクラウド活用術」トピック別オンデマンド・シリーズ

	タイトル	ご担当領域	スピーカー
#1	**クラウドアドバイザリーで始める デジタル変革第二章**	**アプリ系 インフラ系**	**日本アイ・ビー・エム株式会社 アソシエイトパートナー／エグゼクティブアーキテクト　八木沼剛**
#2	レガシー・マイグレーション	アプリ系 インフラ系	日本アイ・ビー・エム株式会社 マイグレーション・エキスパート 北沢強
#3	コンテナ化アセスメント	アプリ系 インフラ系	日本アイ・ビー・エム株式会社 IBM Open Cloud Center 吉田ひろみ
#4	クラウドネイティブ時代の新しいシステム開発	アプリ系	日本アイ・ビー・エム株式会社 シニア・アーキテクト 石井真一
#5	DevSecOpsと次世代超高速開発ソリューションを活用した クラウドアプリケーション開発・運用のご紹介	アプリ系	日本アイ・ビー・エム株式会社 アソシエート・パートナー 谷松清孝
#6	お客様の取り組み	アプリ系 インフラ系	日本アイ・ビー・エム株式会社 技術理事 Complex System　Integration CTO 久波健二

クラウド・アドバイザリーとは

Our vision is...
*To serve **as the Most Trusted Partner** and Tip-of-the-spear World-Class Advisors solving clients' toughest challenges on their hybrid cloud journey to becoming **a cognitive enterprise.***

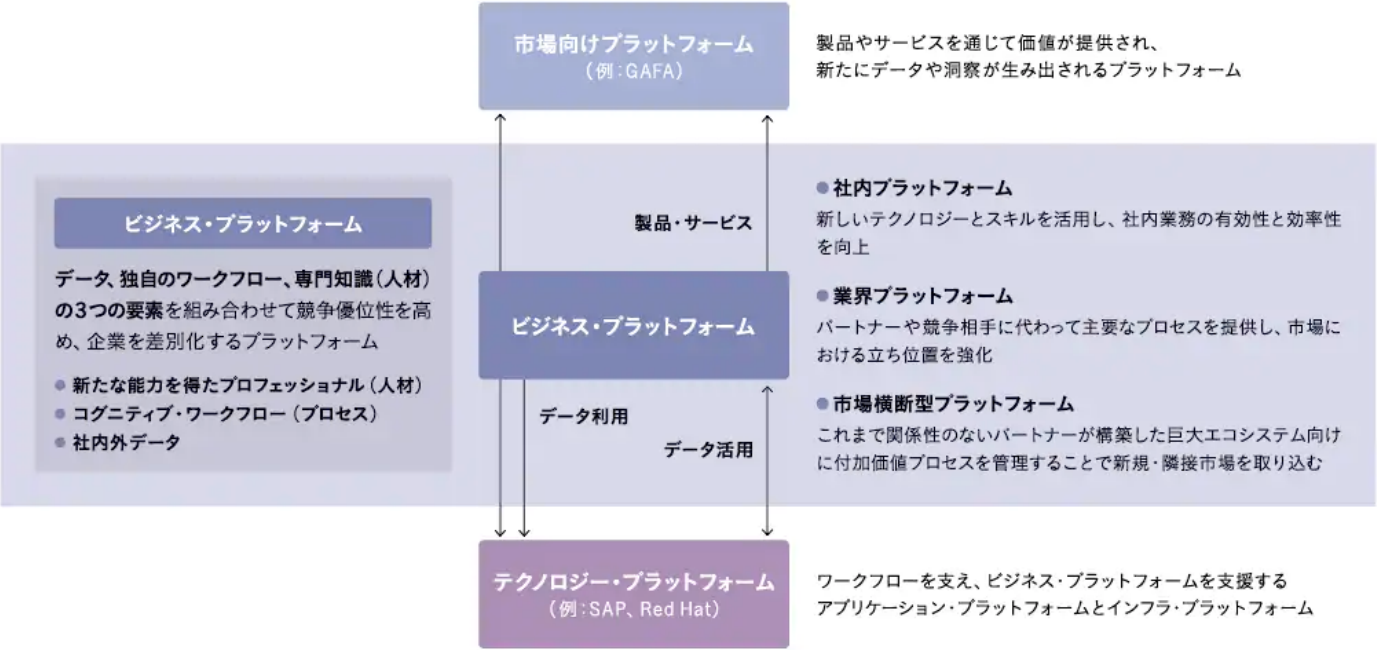
- ✓ クラウド・アドバイザリーとは、お客様の戦略的な取り組みについて、イノベーティブで実行可能かつ高い経済効果を見込める構想・戦略・ロードマップを検討し策定するために、IBMの知識と経験とソリューションをご提供するアドバイザリーサービス

- ✓ また上記に加え、クラウド・アドバイザリーとは、構想・戦略・ロードマップの策定に続けて、それらを実行し評価し継続的に更新するために、目的地に到着するまで、IBMの知識と経験とソリューションをご提供するアドバイザリーサービス

デジタル変革が目指す先：コグニティブ・エンタープライズ

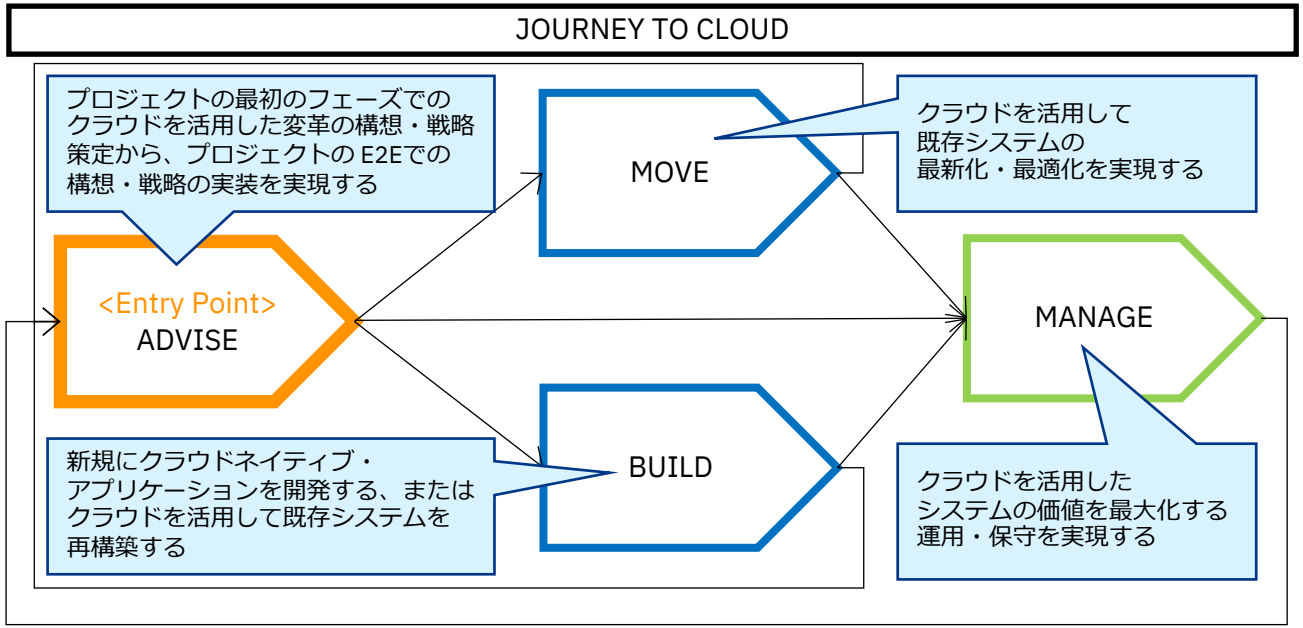
- ✓ 企業、業界あるいは、エコシステムのビジネスプラットフォームを介して、企業内データを活用した魅力的なサービスを顧客や自社員に提供する
- ✓ 様々なチャネルで入ってくる顧客や自社員に「いつでもどこでも」を提供するためにはクラウドの活用が必須となる

プラットフォームで実現するコグニティブ・エンタープライズ



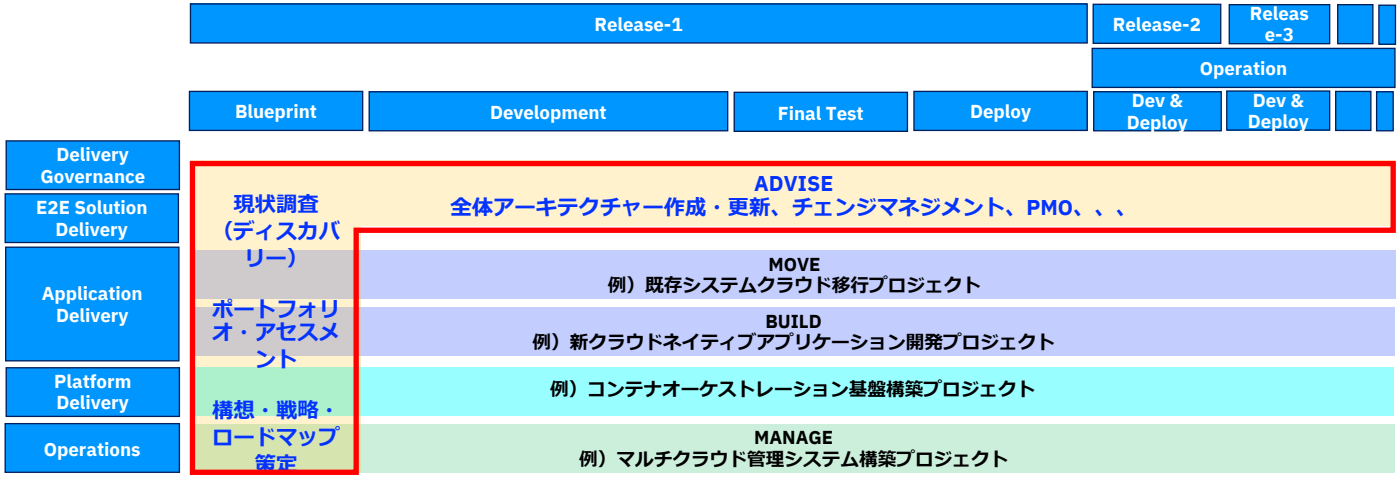
デジタル変革の入り口

✓ クラウド・アドバイザリーは、特にデジタル・トランスフォーメーションやクラウド・ジャーニーの進め方について迷っておられるお客様のための入り口／エントリーポイントとしての役割を果たす



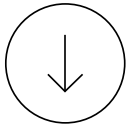
クラウド・アドバイザリーがカバーする範囲

- ✓ クラウド・アドバイザリーは、各プロジェクトの 最初のフェーズで構想・戦略・アーキテクチャー・ロードマップの策定をリードする
- ✓ また、各プロジェクトの End to Endで構想・戦略・アーキテクチャー・ロードマップの実装を確実にするためのガバナンスをリードする



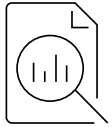
変革の道筋を描く

✓ クラウド・アドバイザリーでは 5つのステップで
デジタル変革の戦略とロードマップを描く



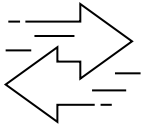
現状を理解する

ITポートフォリオ、テクニカル・ケイパビリティ、運用モデルの成熟度、TCOを評価するためのベースラインを定義する



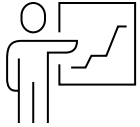
現状を評価する

ITポートフォリオ、テクニカルケイパビリティ、運用能力、現在のTCO、について評価を実行する



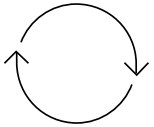
オプションを定義する

変革のための一連の戦略を定義し詳細化する



アクションの方針を策定する

戦略間の関係性を詳細化し、一連の変革アクションを優先順位付けする



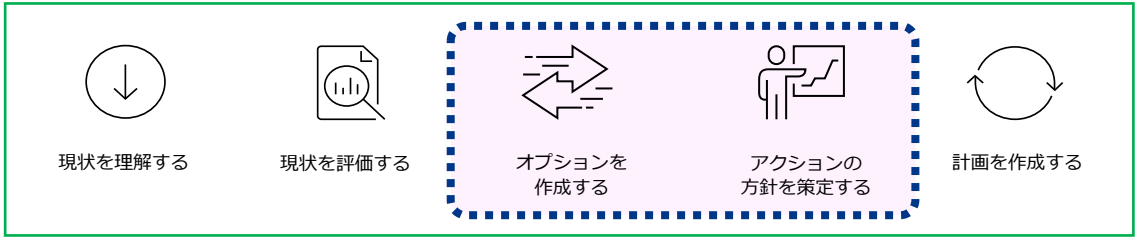
計画を作成する

変革のロードマップを作成する

https://www.ibm.com/garage/method/cloud

変革アクションをクイックに定義する

✓ クラウド・アドバイザリー・ツールを活用して、既存システムやワークロードに対する変革アクションをクイックに策定する



Inputs

Key Attributes

1. Business Alignment
2. Business Criticality
3. Frequency of Change
4. Application Type & Architecture
5. Platform Virtualization and OS
6. Software and Technologies
7. Interface Complexity
8. Security & Compliance Requirements
9. Nonfunctional Requirements
10. Sizing & Capacity
11. Usage Characteristics
12. Data Transfer Requirements
13. Current Cost Profile

1000+ Rules

Outputs

Disposition

1. Buy (Replace with SaaS)
2. Consolidate
3. Evergreen
4. Extend for Hybrid Cloud
5. Keep
6. Migrate
7. Retire
8. Transform

Transformation Actions

1. Hybrid Cloud Security
2. IaaS/PaaS Enablement
3. DevOps Enablement
4. Microservices
5. DB, Middleware and OS upgrades
6. Containerization
7. Rewrite for Cloud Native
8. ,,,

https://www.youtube.com/watch?v=ped1j1P_0jU

Case Study

Cloud Advisory から始まる デジタル変革 @世界最大の航空会社

新サービスを従来の半分の期間で本番リリース

ADVISE ON CLOUD

IBM Garage のキックオフ。スポンサーユーザーを集めてさまざまな課題を定義し、アクションのアイデアに優先順位を付けます。
Year 1で実行する 20のユースケースを選択しました。

MOVE TO CLOUD

5つのユースケースの Wave 1 ビルドを完了し、
市場でテストしました。 3つのアイデアを削除し、残りの 2つを本番環境にデプロイしました。 チームを 15に拡張し、
5つのプロトタイプで Wave 2を開始しました。

BUILD FOR CLOUD

Wave 1 の 2つの MVP を一般公開し、Wave 2 から 1 つのプロトタイプを選定して構築しました。
さらに Wave 3 アイデアプロトタイピングを開始しました。

MANAGE ON CLOUD

Wave 3 にはテストが成功した 3つのアイデアが含まれていました。
Wave 4 を一時中断し、公開済みあるいは構築中のプロダクトとプロトタイプに組み込まれている 5つのコンセプトに焦点を当てることに決定。 これには、ブロックチェーン、RPA、3つの AI 製品が含まれています。

https://www.ibm.com/jp-ja/case-studies/american-airlines-jp

「今すぐ役立つクラウド活用術」トピック別オンデマンド・シリーズ

	タイトル	ご担当領域	スピーカー
#1	クラウドアドバイザリーで始める デジタル変革第二章	アプリ系 インフラ系	日本アイ・ビー・エム株式会社 アソシエイトパートナー／エグゼクティブアーキテクト　八木沼剛
#2	**レガシー・マイグレーション**	**アプリ系 インフラ系**	**日本アイ・ビー・エム株式会社 マイグレーション・エキスパート 北沢強**
#3	**コンテナ化アセスメント**	**アプリ系 インフラ系**	**日本アイ・ビー・エム株式会社 IBM Open Cloud Center 吉田ひろみ**
#4	**クラウドネイティブ時代の 新しいシステム開発**	**アプリ系**	**日本アイ・ビー・エム株式会社 シニア・アーキテクト 石井真一**
#5	**DevSecOpsと次世代超高速開発ソリューションを活用したクラウドアプリケーション開発・運用のご紹介**	**アプリ系**	**日本アイ・ビー・エム株式会社 アソシエート・パートナー 谷松清孝**
#6	**お客様の取り組み**	**アプリ系 インフラ系**	**日本アイ・ビー・エム株式会社 技術理事 Complex System Integration CTO 久波健二**

ワークショップ、セッション、および資料は、IBMまたはセッション発表者によって準備され、それぞれ独自の見解を反映したものです。それらは情報提供の目的のみで提供されており、いかなる参加者に対しても法律的またはその他の指導や助言を意図したものではなく、またそのような結果を生むものでもありません。本講演資料に含まれている情報については、完全性と正確性を期するよう努力しましたが、「現状のまま」提供され、明示または暗示にかかわらずいかなる保証も伴わないものとします。本講演資料またはその他の資料の使用によって、あるいはその他の関連によって、いかなる損害が生じた場合も、IBMは責任を負わないものとします。 本講演資料に含まれている内容は、IBMまたはそのサプライヤーやライセンス交付者からいかなる保証または表明を引きだすことを意図したものでも、IBMソフトウェアの使用を規定する適用ライセンス契約の条項を変更することを意図したものでもなく、またそのような結果を生むものでもありません。

本講演資料でIBM製品、プログラム、またはサービスに言及していても、IBMが営業活動を行っているすべての国でそれらが使用可能であることを暗示するものではありません。本講演資料で言及している製品リリース日付や製品機能は、市場機会またはその他の要因に基づいてIBM独自の決定権をもっていつでも変更できるものとし、いかなる方法においても将来の製品または機能が使用可能になると確約することを意図したものではありません。本講演資料に含まれている内容は、参加者が開始する活動によって特定の販売、売上高の向上、またはその他の結果が生じると述べる、または暗示することを意図したものでも、またそのような結果を生むものでもありません。 パフォーマンスは、管理された環境において標準的なIBMベンチマークを使用した測定と予測に基づいています。ユーザーが経験する実際のスループットやパフォーマンスは、ユーザーのジョブ・ストリームにおけるマルチプログラミングの量、入出力構成、ストレージ構成、および処理されるワークロードなどの考慮事項を含む、数多くの要因に応じて変化します。したがって、個々のユーザーがここで述べられているものと同様の結果を得られると確約するものではありません。

記述されているすべてのお客様事例は、それらのお客様がどのようにIBM製品を使用したか、またそれらのお客様が達成した結果の実例として示されたものです。実際の環境コストおよびパフォーマンス特性は、お客様ごとに異なる場合があります。

IBM、IBM ロゴ、ibm.com は、 世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corporationの商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。